

特別分科会 I 「時宜に応じた課題」に参加して

豊後高田市立真玉中学校
教頭 中川 省蔵

特別分科会 I では、信濃教育会会長の後藤正幸氏による「カリキュラム・マネジメントを通しての学校教育改善についてー信濃教育会（長野県）での実践を通してー」と、前東京都千代田区立麴町中学校副校長の宮森巖氏による「麴町中学校の学校改革と副校長の役割」の2本の提言があった。

この分科会では、来年度から実施される新学習指導要領で示されている「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、教育課程の面から実際に改革に携わった現場の先生からの貴重な講演をもとに研究を進めていった。また、私たちにとって今、最も興味・関心ある「働き方改革」についても「学校教育の改善」「学校改革」という視点から話を聞くことができた。

午前中の後藤氏の講演からは、学びの主体者は子どもであるという原点に立ち戻り、子ども中心の教育課程編成及び授業改善について、それを支える教師の自主性や熱意を育むための、副校長、教頭の関与や在り方が話題となった。如何に教師の気持に火を灯し、その火が持続していくことの大切さを学ぶことができた。

午後の宮森氏の講演では、マスコミでも紹介されている東京の麴町中学校における、チームで子どもや保護者に対応していく全員担任制、生徒の学びへの主体性を育むための定期テストの廃止や部活動をPTA組織に位置付けたり、外部人材を積極的に活用したりするなどの働き方改革が話題となった。大きな学校改革、改善を支える副校長、教頭の関与としては、常に教育目標を意識し、取組の目的に立ち戻りながら、教師の意識改革に繋げていく。そのため、小まめなミーティングや個別の対話を行っていくことや職員に責任を持たせていくことの大切さを学んだ。1日を通して、目標や目的を明確にすること、学校の当たり前を今一度、見直してみることに、そして教師、子どもは勿論PTA・地域の主体性を育むための、副校長、教頭のあり方について大いに勉強になった。私自身にとって非常に有意義な研修であった。